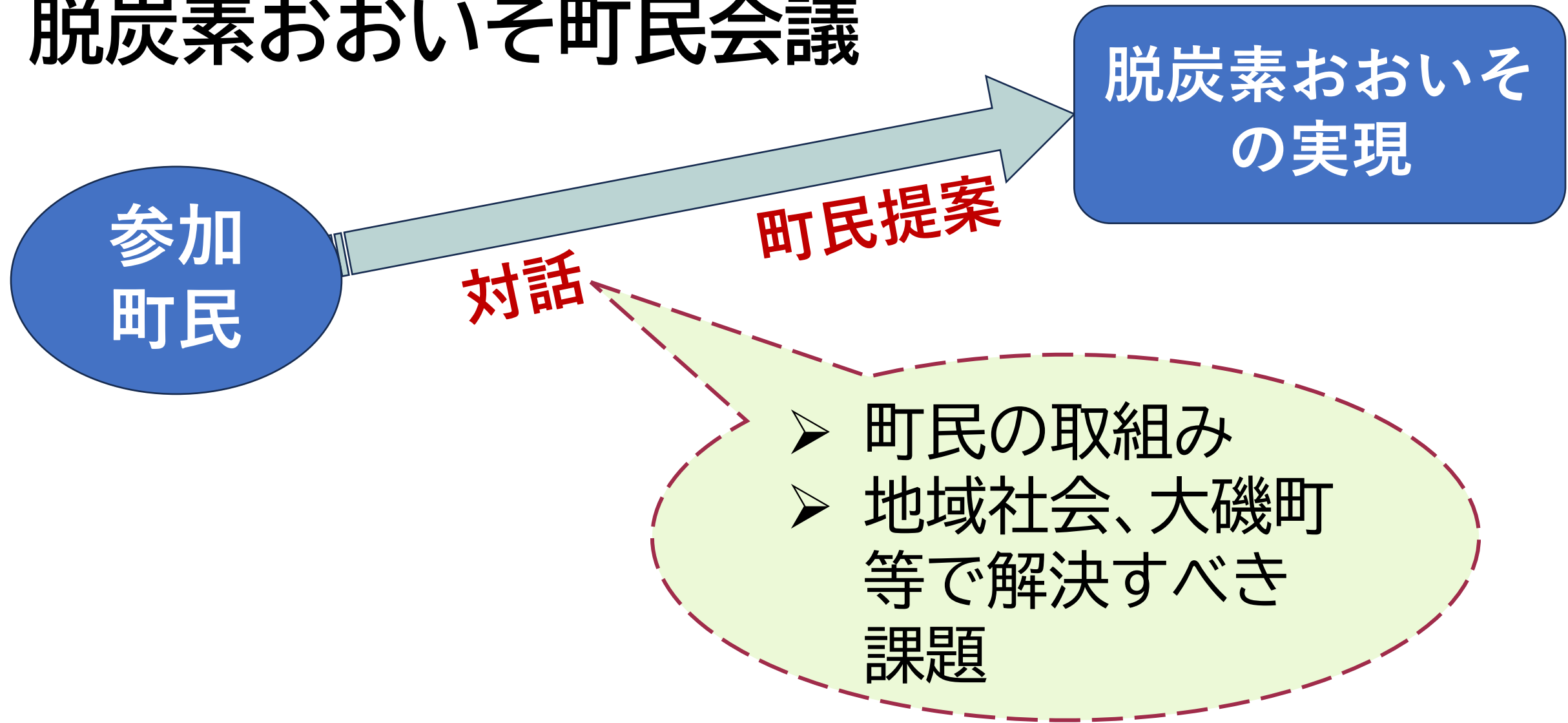


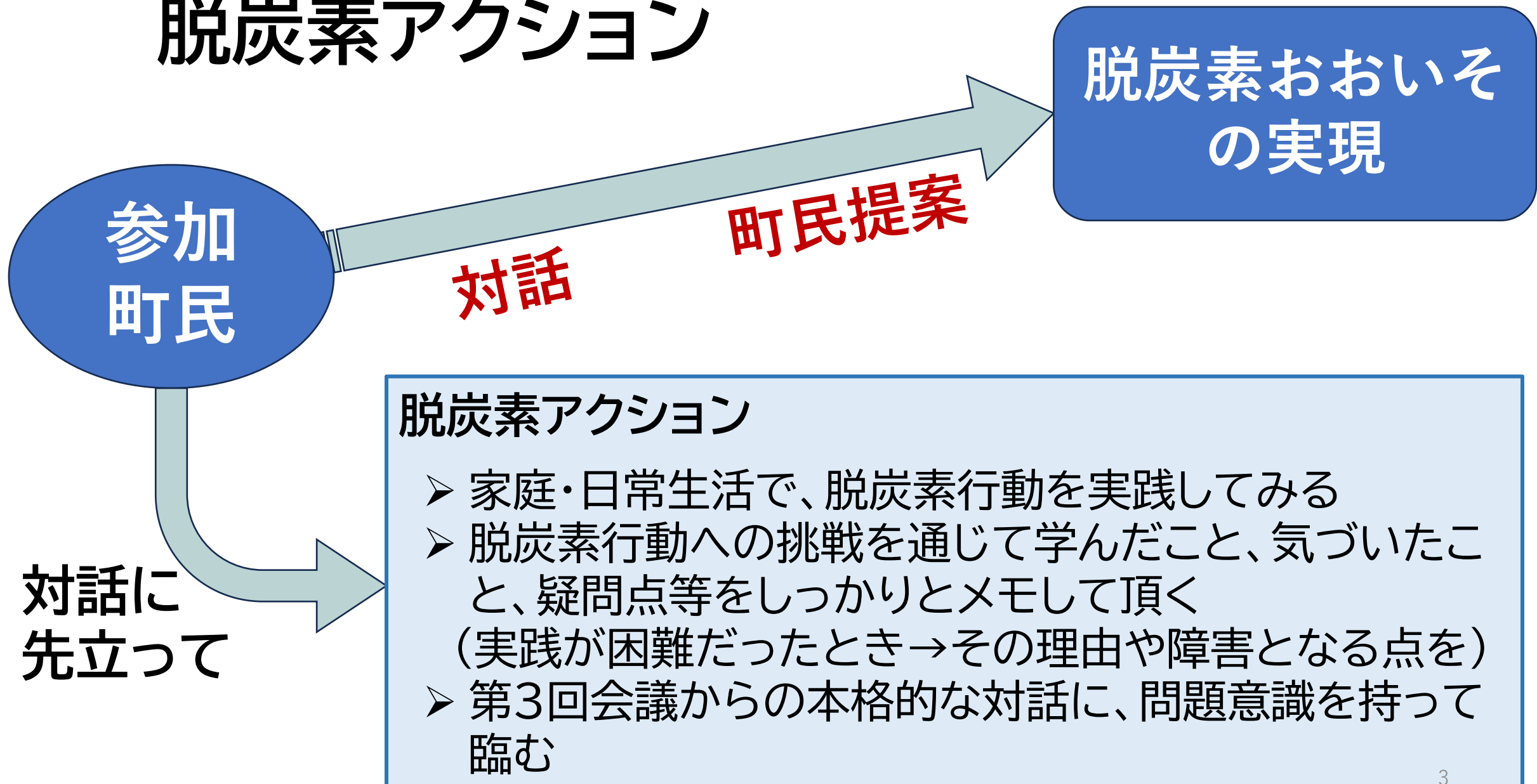
町民自身による脱炭素行動(アクション)

説明：「脱炭素おおいそ市民会議実行委員会」事務局
一般社団法人環境政策対話研究所
代表理事 柳下正治

脱炭素おおいそ町民会議



脱炭素アクション



脱炭素アクションを町民対話に活かす！

主催者・事務局

参加町民

大磯町計画・研究成果等を基に
脱炭素アクション（案）用意

第1回町民会議

8/3

町民による点検
町民の気づき・ご意見

第1回会議結果を踏まえ、15～20
項目の脱炭素アクション作成

第2回町民会議

8/24

脱炭素アクションの説明
町民間で分担・・・1人3項目程度
（ご意向とバランス）

事務局による整理・分析

報告

脱炭素アクションの実践
（8月下旬～9月10日の約10日間）

第3回町民会議

9/28

脱炭素アクション結果・気づき等
の共有・意見交換
話し合うテーマ・論点を絞り込む

専門家（テーマ
や論点に応じ）

第4回町民会議

10/26

テーマ討議（分科会）
とことん討議・対話を深める

脱炭素アクション(案)の中身を点検する

—町民の日々のライフスタイルと二酸化炭素の排出の関わり

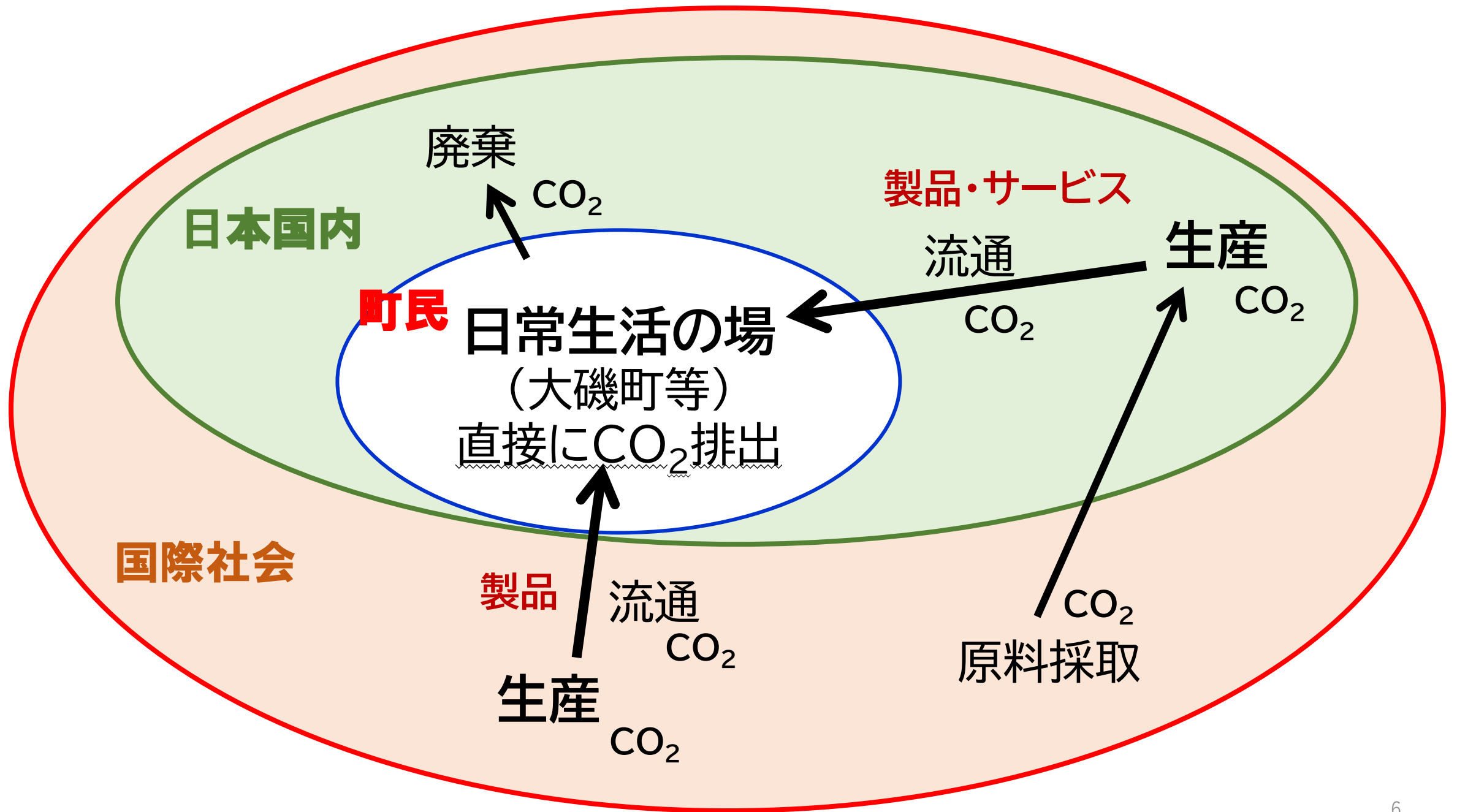
1. 家庭生活や日常活動において CO_2 等を**直接排出**する。

- 家庭でのガス燃焼での料理や入浴
- 石油・ガスストーブでの暖房
- 自動車の運転

2. 電気の利用・・・実際に CO_2 を排出するのは発電所（**間接排出**）

3. 市民が購入する製品・サービスに伴う CO_2 等の排出（**間接排出**）

家庭内で CO_2 等を排出している訳ではないが、モノの消費等に伴い、そのモノの製造・流通・廃棄の過程で CO_2 等を排出している。排出の場は、大磯町内とは限らず、日本国内、ものによっては海外で排出される。



脱炭素アクション（案）について

- 日本の代表的な環境の研究機関である国立環境研究所と地球環境戦略研究機関は、市民が日常生活等の中でCO₂の排出を削減できる行動は、約60種類に整理することができるとしています。（「1.5℃ライフスタイルプログラム」）
- 大磯町は2023年度に策定の地球温暖化対策実行計画（環境基本計画の一部）の中で、「町民に期待する脱炭素行動」を特記しています。
- 以上の2つを根拠として、町民による日常生活等での脱炭素行動を25項目に整理し、「脱炭素アクション（案）」を作成しました。
- 脱炭素行動を大きく、4つの分野で構成しています。
 - （1）住まい
 - （2）消費
 - （3）移動
 - （4）吸収源

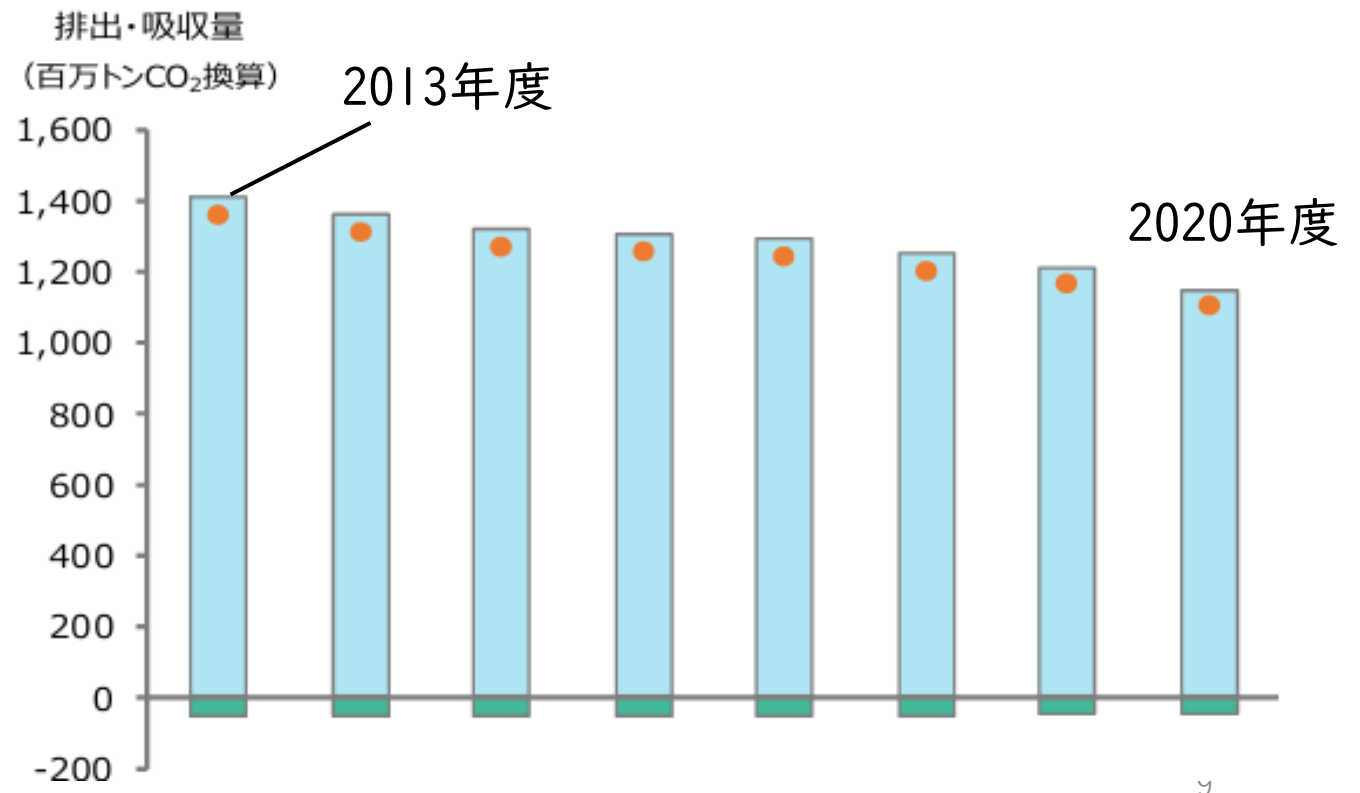
脱炭素アクション（案）

分野	CO ₂ の排出	項目数	代表的な脱炭素行動
住まい	<ul style="list-style-type: none">・ 暖冷房、照明、料理、入浴・ その他家電製品の利用等	7	<ul style="list-style-type: none">・ 屋根への太陽光パネルの設置・ 住宅の断熱性能の向上・ 省エネ家電等への買い替え・ 省エネ行動
消費	<ul style="list-style-type: none">・ 製品・サービスの購入・利用・廃棄等に伴う間接的な排出・ 食材の購入・廃棄等に伴う間接的な排出	8	<ul style="list-style-type: none">・ CO₂の低排出の商品の選択・ 使い捨てプラスチックの削減・ 資源循環の推進・ 旬産・旬消、地産・地消・ 食品ロスの削減
移動	自動車（ガソリン車、ディーゼル車）の走行	6	<ul style="list-style-type: none">・ EV等の脱炭素・低炭素車への転換・ 公共交通の利用促進、徒歩・自転車の利用・ 働き方、暮らし方等の改善で、移動量を減らす
吸収源	CO ₂ を光合成によって吸収し、固定化	4	持続可能な森林管理・利用、バイオマス資源の活用、ブルーカーボン対策

吸収源対策

- 吸収源対策とは、森林・海洋など、CO₂を吸収・固定する能力を持つ「吸収源」を保全・整備し、温室効果ガスの排出削減に貢献する取り組み。森林整備や都市緑化、木材利用の推進、ブルーカーボン対策など。
- 国の地球温暖化対策計画（2021年10月）によれば、

「森林等の吸収源対策による2019年度の排出・吸収量は4,590万t-CO₂。これは、2013年度の温室効果ガス総排出量の3.3%に相当。」



ブルーカーボン対策

- 海藻や海草などの海洋生態系が吸収した炭素（ブルーカーボン）を温暖化対策に活用する取組のこと。具体的には、藻場や干潟などの生態系の保全・再生対策があげられる。
- 神奈川県下での取り組み事例（環境省資料より）
 - 横浜ブルーカーボン事業（横浜市）
 - 葉山町の多様な主体が連携した海の森づくり活動（鹿島建設(株)等）
 - ブルーカーボンベルトRの構築に向けた取組（一社 ブルーカーボンベルト・リビエラ研究所）
 - 森里海つなぐプロジェクト（東京ガス(株)）
 - 東京湾UMIプロジェクト（一財 セブンイレブン記念財団）



我が国における ブルーカーボン取組事例集

～藻場干潟の保全・創出によるCO2吸収源対策～

2023年12月
ブルーカーボン関係省庁連絡会議
（環境省）

どの町民の立場で？

町民は、生活者・消費者であり、有権者、納税者、投資家であり、地域社会の構成員。様々な顔で、重要な役割を果たす存在。

- 地域・都市での日常生活における取組・行動主体（生活者）としての役割
- 商品・サービスを購入し、消費し、廃棄する主体としての消費者
- 地域社会での取組に参加する地域住民
- 投資家として、企業の取組を促進
- 思い切った取組／政策の導入に向けての社会的な意思表明者（主権者）。
- …まだ多様な立場がある

脱炭素アクションにおいては、まず、生活者・消費者の立場で、そして地域住民の立場で挑戦頂きます